

うれしい悲鳴

レストランの害虫等の管理をしているPCO(ペストコントロールオペレーター「害虫防除業」)の方からの相談です。「レストランの厨房に十数匹の虫が発生していた。種類は、何でしょうか。」と虫を持参されました。持参された虫の名前は、キイロトラカミキリの成虫でした。最近、このようにPCOからの鑑別依頼が多くあります。

衛生動物部門の主張

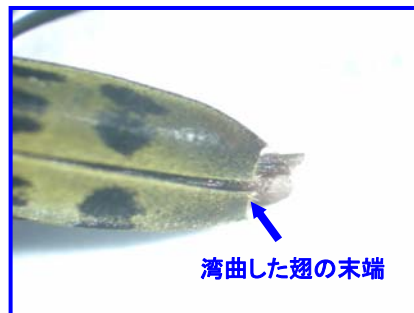
衛生動物部門では、「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」で定められている建築物ねずみ等防除作業従事者研修会に講師を派遣しています。その研修会の中で「科学的な害虫防除の出発点は、まず調査を行うことから始まります。特に、加害している虫の種類を鑑別することは、最も重要なことの一つです。種名が分かることにより、その種の弱点に分かり、科学的に防除を行うことができます。調査や鑑別作業は、手の掛かることが多く、時間や費用の浪費のように見えますが、結果的には早道になります。また、衛生動物部門は、科学的な害虫防除を行うためにPCOに対して積極的に協力していきます。」と訴えてきました。鑑別依頼件数が増えたのは、こうした訴えの結果だと思っています。衛生動物部門が京都市における害虫駆除の技術的な中核として、PCOと連携していくことは、結果的に市民の害虫関係の色々な問題について直接的に、間接的に寄与していると思っています。

キイロトラカミキリ

和名の末尾にトラカミキリが付くカミキリの仲間がいます。トラカミキリ族といわれるグループです。このグループの多くは、名前のお通り、前翅(はね)に特徴的な黄色と黒色の縞模様があります。今回の鑑別依頼の種類もその独特の模様でキイロトラカミキリと鑑別しました。さらに、独特の模様以外にもいくつかの特徴がありました。触角の節に短いトゲが生じること、前翅の末端が、湾曲していることなどです。



キイロトラカミキリ



湾曲した翅の末端



触角節の先端の小さなトゲ

擬態

黄色と黒の縞模様で連想する昆虫がいます。スズメバチ類です。スズメバチ類の雌は、昆虫界で最強の毒針を持っています。そのため、スズメバチ類は、他の生物から襲われることが少ない昆虫です。キイロトラカミキリは、そのことを利用しました。トラカミキリの仲間は、自分たちの翅の模様をスズメバチ類に似させることによって、外敵から身を守っているといわれています。これを擬(ぎ)態といいます。

カミキリムシの名前のいわれ

子供のころ、雑木林でやや大型のきれいな模様のカミキリムシの成虫を見つけました。子供の好奇心をそそののに十分な模様でした。捕まえるために手を出したところ、思いきり指を挟まれた経験があります。毒液は注入しませんが、強烈な痛さです。カミキリムシの名前が「咬み切り」からきていることを身にもって体感しました。

発生源

厨房に発生する虫といえば、多くの食品害虫を連想させます。ところが、カミキリムシの仲間の幼虫のほとんどは、枯れた木を食害し、成長します。キイロトラカミキリの幼虫の発生場所は、コナラやクヌギなどの広葉樹の枯木です。シイタケの栽培にクヌギなどの枯木を使用することから、これらの栽培地の周辺でよく見られます。今回の発生場所は、厨房です。いささか場違いな感じです。依頼者から、聞き取り調査を行いました。その結果、発生源が推測できました。この厨房は、ピザが主なメニューです。ピザを焼くための窯があり、その窯の熱源は、広葉樹の薪(まき)でした。その薪が発生源と推察し、その旨を相談者に説明しました。

ただ、キイロトラカミキリの成虫の出現時期は、図鑑などによると5月から8月です。今回の鑑別依頼は、1月下旬です。出現時期が異なりました。おそらく、薪は、室内に置かれていたことから、薪が暖められ、キイロトラカミキリが季節を勘違いして出てきたものと推察しました。